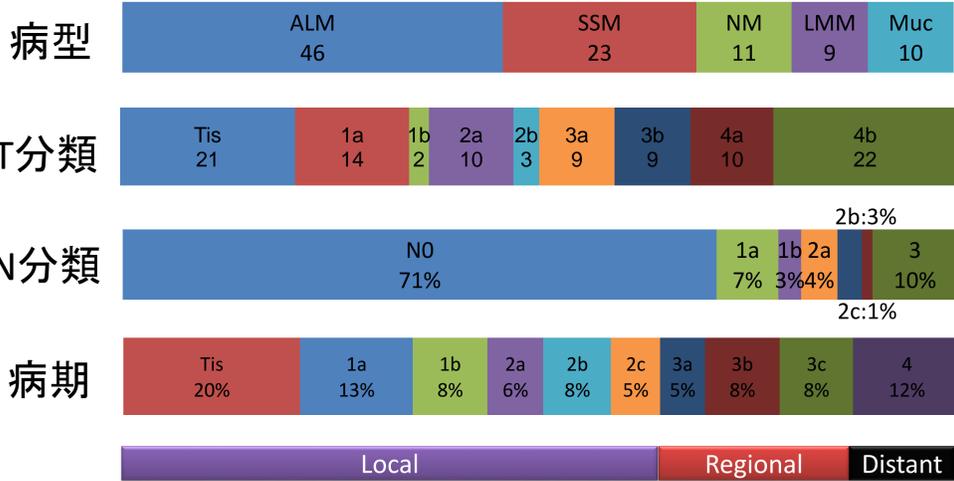


Japanese Melanoma Study: Annual Report 2017

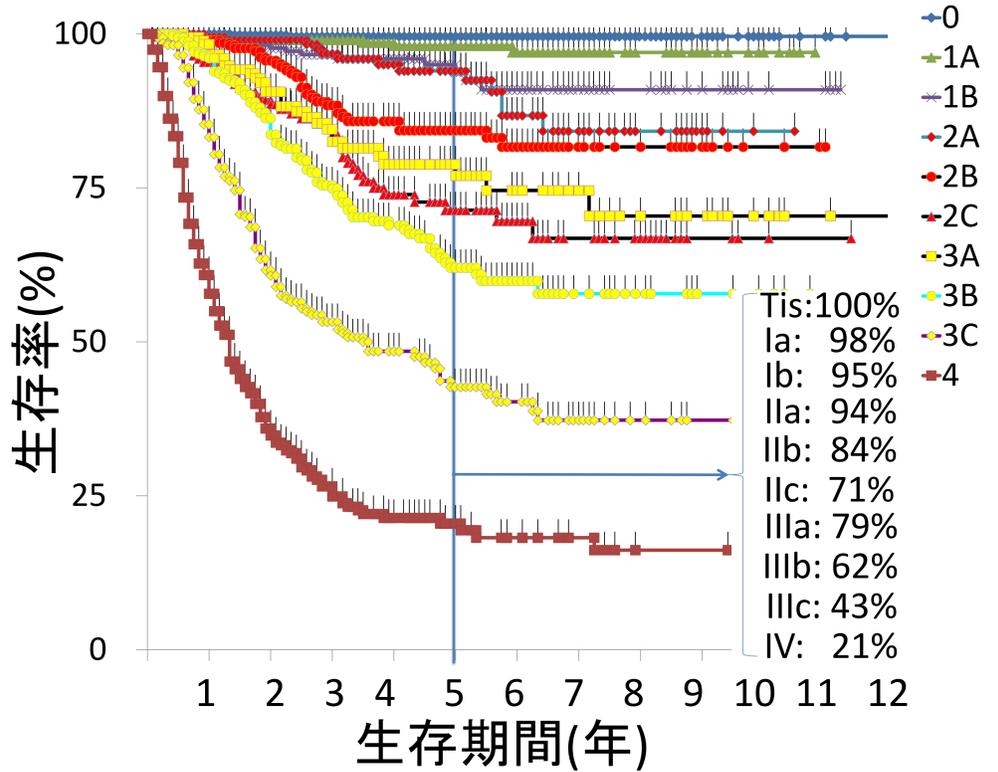
皮膚悪性腫瘍学会皮膚がん予後統計委員会担当委員: 藤澤 康弘 (筑波大学)

総症例数: 4,594症例

年齢	受診までの期間		
平均	64.1	平均	69.5ヶ月
中央値	67.0	中央値	24ヶ月
性別			
男性	2,107 (45.9%)	他腫瘍あり	361
女性	2,484	家族歴あり	97



疾患特異的生存率 (数字は5年生存率)



AJCC第7版から8版への変更点

T分類

	腫瘍の厚さ	潰瘍の有無
Tx (TTが測定できない)	関係なし	関係なし
T0 (原発不明, 自然消退)	関係なし	関係なし
Tis	関係なし	関係なし
T1		
T1a	TT < 0.8 mm	潰瘍なし
T1b	TT < 0.8 mm TT 0.8-1.0 mm	潰瘍あり 潰瘍ありorなし
T2		
T2a	1.0 < TT ≤ 2.0 mm	潰瘍なし
T2b	1.0 < TT ≤ 2.0 mm	潰瘍あり
T3		
T3a	2.0 < TT ≤ 4.0 mm	潰瘍なし
T3b	2.0 < TT ≤ 4.0 mm	潰瘍あり
T4		
T4a	TT > 4 mm	潰瘍なし
T4b	TT > 4 mm	潰瘍あり

T1で腫瘍の厚さと潰瘍により分類

N分類

	リンパ節転移の個数	in-transit, satellite, and/or microsatellite
Nx	組織学的なリンパ節評価無し	
N0	組織学的にリンパ節転移なし	
N1		なし
N1a	1個 (臨床的転移なし)	
N1b	1個 (臨床的転移有り)	
N1c	なし	あり
N2		
N2a	2-3個 (臨床的転移なし)	
N2b	2-3個 (1個以上臨床的転移有り)	なし
N2c	1個	あり
N3		
N3a	4個以上 (臨床的転移なし)	
N3b	4個以上 (1個以上臨床的転移有り, またはmatted nodesがある)	なし
N3c	2個以上 or matted nodesがある	あり

個数やIn-transitにより細かく分類

M分類

	転移部位	LDH上昇
M0	遠隔転移を認めない	関係なし
M1		
M1a		
M1a(0)	なし	なし
M1a(1)	皮膚, 軟部組織, 所属外リンパ節に転移	あり
M1b		
M1b(0)	肺転移	なし
M1b(1)	(M1a転移の有無を問わない)	あり
M1c		
M1c(0)	中枢神経以外の転移	なし
M1c(1)	(M1a・M1b転移の有無を問わない)	あり
M1d		
M1d(0)	中枢神経への転移	なし
M1d(1)	(M1a,b,c転移の有無を問わない)	あり

転移部位とLDHで分類

組織学的病期分類

Stage	T	N	M
0	Tis		
I	IA: T1a, T1b IB: T2a		
II	IIA: T2b, T3a IIB: T3b, T4a	N0	
III	IIIA: T1a/b, T2a IIIB: T1a/b, T2a T2b, T3a IIIC: T4b	N1a, N2a N1b/c N1a-N2b N2b/2c, N3b/3c N2c, N3a/b/c	M0
IV	IV: Any T	Any N	M1

<ポイント>

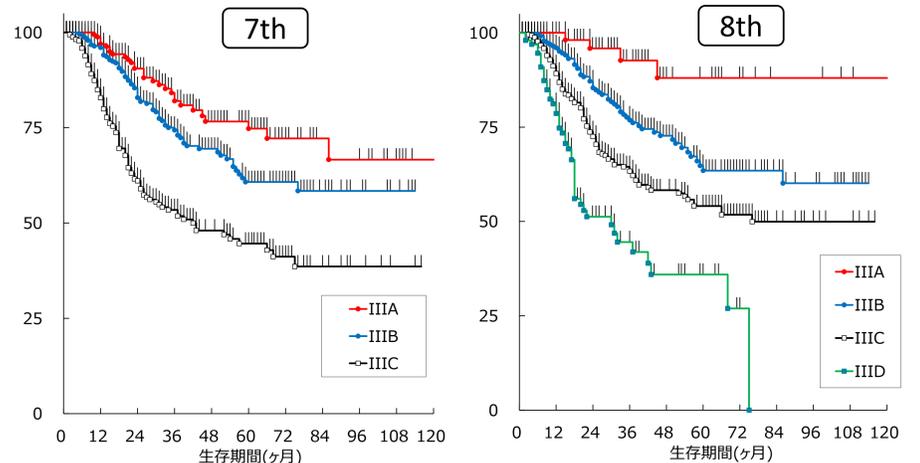
N分類および関連するIII期の分類に変更

		AJCC Eighth Edition Melanoma Stage III Subgroups								
		T Category								
Category	N	T0	T1a	T1b	T2a	T2b	T3a	T3b	T4a	T4b
N1a		N/A	A	A	A	B	B	C	C	C
N1b		B	B	B	B	B	B	C	C	C
N1c		B	B	B	B	B	B	C	C	C
N2a		N/A	A	A	A	B	B	C	C	C
N2b		C	B	B	B	B	B	C	C	C
N2c		C	C	C	C	C	C	C	C	C
N3a		N/A	C	C	C	C	C	C	C	D
N3b		C	C	C	C	C	C	C	C	D
N3c		C	C	C	C	C	C	C	C	D

Instructions:
 (1) Select patient's N category at left of chart.
 (2) Select patient's T category at top of chart.
 (3) Note letter at the intersection of T&N on grid.
 (4) Determine patient's AJCC stage using legend.

Legend:
 A Stage IIIA
 B Stage IIIB
 C Stage IIIC
 D Stage IIID

III期の新旧比較 (n=836)



8版への変更で新設されたIIID期は特に予後不良
 逆にIIIA期は非常に予後良好
 >より細かい予後予測が可能となった

研究協力施設 (27施設) 御協力に感謝申し上げます

岡山大学	加持 達也 先生	新潟県立がんセンター	竹之内 辰也 先生	大阪市立大学	加茂 理英 先生
旭川医科大学	上原 治朗 先生	神戸大学	藤原 進 先生	筑波大学	藤澤 康弘 先生
岐阜大学	松山 かな子 先生	静岡がんセンター	清原 祥夫 先生・吉川 周佐 先生	東京大学	山田 大資 先生
京都府立医科大学	浅井 純 先生	国立がんセンター	山崎 直也 先生・並川 健二郎 先生	東北大学	藤村 卓 先生
九州大学	内 博史 先生	埼玉医科大学医学部附属病院	緒方 大 先生	日本医科大学	帆足 俊彦 先生
熊本大学	伊 浩信 先生・福島 聡 先生	埼玉医科大学国際医療センター	中村 泰大 先生・寺本 由紀子 先生	浜松医科大学	藤山 俊晴 先生
虎の門病院	岸 晶子 先生	埼玉県立がんセンター	石川 雅士 先生	富山県立中央病院	八田 尚人 先生
		札幌医科大学	宇原 久 先生・加藤 潤史 先生	福岡大学	柴山 慶継 先生
		産業医科大学	吉岡 学 先生	北海道大学	古川 洋志 先生
		信州大学	皆川 茜 先生	名古屋大学	横田 憲二 先生・浦田 透 先生